

平成29年度  
トウール市派遣親善研修生  
報告書

平成29年9月16日(土)～9月26日(火) 11日間



公益  
財団  
法人

Takamatsu International Association

高松市国際交流協会



# 目 次

1. 日程 .....	1
2. フォトギャラリー .....	3
3. 親善研修生 報告書 I	
高松大学 発達科学部2年 永木 はるか	
日誌・活動記録 .....	5
感想文「沢山の出会い」 .....	16
4. 親善研修生 報告書 II	
キッス調理技術専門学校 調理助手 橋本 大奈	
日誌・活動記録 .....	17
感想文「フランスで学んだ事」 .....	26



## 平成 29 年度 トゥール市派遣親善研修生日程

日 時	時 間	内 容
9月16日(土)	14:35 18:07 23:45	高松駅発(リムジンバス) 関西空港着 EK-317 関西空港発
9月17日(日)	4:50 8:20 13:30 16:18 17:58	ドバイ空港着 ドバイ空港発 シャルル・ド・ゴール空港着 シャルル・ド・ゴール駅発(TGV) サン・ピエール・デ・コール駅着、お迎え
9月18日(月)	8:30 13:30	ディドロ小学校で折紙と書道教室 日の出協会で書道教室
9月19日(火)	8:25 14:00	オノレドゥバルザック校でカルタと書道教室 アゼルリドー城、市内見学
9月20日(水)	8:20 13:00	トゥール市内市場見学 キッズレクリエーションセンターで折紙と書道教室
9月21日(木)	8:30 14:30 17:30	CFA 調理師専門学校で調理実習 トゥール市内見学 トゥール市歓迎レセプション
9月22日(金)	9:00 10:30 14:00	ヴァンシー校でカルタ教室 シャルル・バリエ(三ツ星レストラン)見学 ヴィランドリー城訪問、城主にインタビュー
9月23日(土)		ホストファミリーと週末を過ごす
9月24日(日)	10:53 11:51	サン・ピエール・デ・コール駅発(TGV) モンパルナス駅着 パリ市内観光
9月25日(月)	9:10 10:10 15:35	モンパルナス発(シャトルバス) シャルル・ド・ゴール着 EK-074 シャルル・ド・ゴール空港発
9月26日(火)	0:20 3:30 17:40 19:20 22:52	ドバイ空港着 ドバイ空港発 関西空港着 関西空港発(リムジンバス) 高松駅着



# Souvenirs du séjour en France

Du 16 au 26 septembre 2017

ディトロ小学校にて書道教室を開催



オノレドゥバルザック校にてカルタ教室を開催



日の出協会にて書道教室を開催



アゼルリドー城見学



トゥール市役所のマリーさんと市内散策



オノレドゥバルザック校にて書道教室を開催



ホストファミリーのトネー一家の人達と

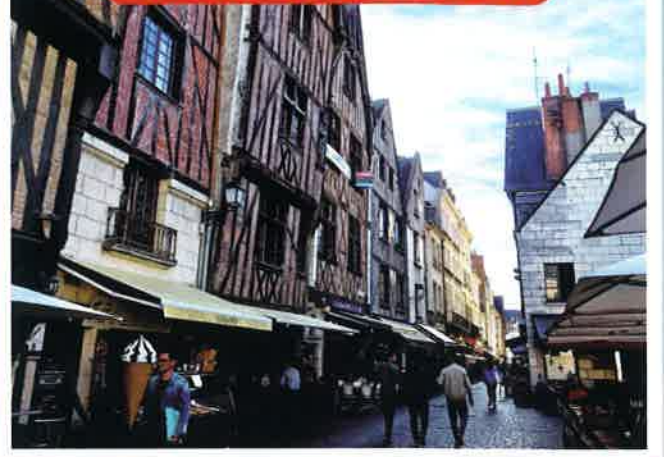


ブリュムロー広場で友人達と

マルシェ（食材市場）の豊富な野菜売り場にて



ブリュムロー広場の素敵な街並み



CFA 調理師専門学校にて



トゥール市役所のレセプションにて



トゥール市役所前にて



キッズレクリエーションセンターにて子ども達と



華麗なるエッフェル塔の夜景の前で



世界的に有名なヴィランドリー城の幾何学模様の庭園



アンボワーズ城にて古風な衣装の人達と





# 親善研修生 報告書 I



## 日誌・活動記録

高松大学 発達科学部 2年 永木はるか

### 9月16日(土)

7月から事前研修を毎週受けてきて、早くフランスに行きたいという想いや、なかなか出来ない体験をするので楽しみな反面、上手く出来るかという不安な想いもあった。

そして、ついに待ちに待った出国当日がやってきた。しかし、私も橋本君も雨女雨男のせい、台風が日本を直撃していた。台風に追われるように関西国際空港に着き、何とか無事出発することができた。飛行機に乗ると、願っていた窓際の席でとても嬉しかった。トウールの日程確認や、フランス語の練習、映画を見たり音楽を聴いたり、とても充実した飛行機旅になった。



関空にていざ出発



機内からのドバイの夜景

### 9月17日(日)

無事にドバイ空港の乗り継ぎも終えて、フランスのシャルル・ド・ゴール空港に着いた。スーツケースも受け取り、ついにフランスだ!と思ったら思いがけないことが起こった。なんと、橋本君のスーツケースから醤油が漏れていた。幸いなことに、橋本君は、醤油をスーツケースの1番下に入れていたので被害は少なかった。橋本君のスーツケースは醤油の良い匂いでコーティングされていた。そしてフランス国鉄の新幹線TGVに乗り、サン・ピエール・デ・コールへ向かった。TGVでは2階の座席であったので、フランスの素敵な風景の移り変わりを楽しむことができた。

そしてようやく、サン・ピエール・デ・コールへ着きホストファミリーと面会した。私のホストファミリーはトネー家で、駅でホストファザーのパトリスさんと、ホストマザーのクリスティーナさんが出迎えてくれた。2人ともとても笑顔で嬉しかった。トネー家に向かうと、三女のセリアが待っていた。彼女は今年で19歳になるようで、私と年が近く、すぐに仲良くなれた。トネー家の各部屋を案内してくれて、どの部屋もとてもお洒落で可愛くて、ここで生活できることにわくわくした。そして、私の部屋は天窓がついている部屋で、窓からは空とお向かいの家々の屋根や煙突を

見ることができた。トネー家は、よく外国に旅行をしていて、旅先で集めた置物を沢山飾っていた。その中には日本の物が多く、日本のことが大好きなんだなと実感してとても嬉しかった。

夕食では、チキンとリクエストしたフランスパンが出て来て、デザートはケーキやブドウで、とても美味しかった。フランス語での言い方も教えてくれた。夕食の後は、セリアとピアノを弾いて遊んだ。私が、アンジェラアキの「拝啓 15 の手紙」を弾くと、トネー一家がこの曲を知っていて大好きだと言っていた。その後、セリアが様々な音楽の弾き歌いをしてくれたのがとても格好よかった。

お風呂は、全員朝に入るようだったが、私は夜に入った。お風呂もお洒落で入っているのがあったという間に感じた。その後、トネー一家とお話しをして、明日の準備をして、布団に入ってぐっすり寝た。



ホストファミリーの近隣の風景

## 9月18日(月)

フランス人の朝は早い。私達とトゥール市役所のアテンダントのマリーさんとの待ち合わせ時間も、セリアの通っている大学の始まる時間も、8:00頃からである。パン屋が開く時間はもっと早い。朝起きて下に降りると、朝食があってマカロンやブドウを用意してくれていた。私はマカロンが大好きで、ペロッと食べてしまった。

そして、ホストファザーのパトリスさんと共に家を出ると、辺り一面が霧で覆われていた。その時の気温は6度だったので、とても寒かった。フランスの朝はいつもこんなに冷えるの？とパトリスさんに聞くと、9月は不安定なんだよと言っていた。彼の車で橋本君のホストマザーのリンダさんとの待ち合わせ場所に行き、彼女の車に乗り換えて、市役所へと向かった。市役所のマリーさんと合流した後、マリーさんと私と橋本君は、トラムにのり、ディドロ小学校へと向かった。

ディドロ小学校では、はじめはカルタと折り紙と書道をする予定だったが、対象学年が10歳位で幼いということもあり、折り紙と書道をした。私達が担当の教室の中に入ると、子ども達はとても嬉しそうに出迎えてくれて、また、日本のことや私達に興味深々であった。

この日私は折り紙担当で、折り紙を座席に配っていくと、次々におお～という声が聞こえてきた。一番人気な折り紙は金紙銀紙で、ジャンケンで勝った人がゲットできることにした。ジャンケンをしようとしたら、日本のジャンケンとフランスのジャンケンは、言葉はともかく、リズムが違うので驚いた。ジャンケンを終えた後、まずは風船の説明から行った。子ども達は、テンポよく折り紙を折り進めていたが、折り目をつけたところを活かして折り畳む場面や、既に折った部分を広げてその中に折り込む場面が、とても難しそうだった。前に立って折り紙を教えながら、出来てない子がいれば近くに寄って教えた。風船が完成したら、皆手の上でポンポンとついて遊んでいた。

風船の次は、兜を作った。教室に新聞がないようだったので、普通サイズの折り紙を使って織った。子ども達は、折り方をマスターしようとして一生懸命だった。兜が完成した後は、皆自分から頭の上に乗せていて、作ったものが何を意味するのかがきちんと理解していて、とても嬉しかった。その後は、橋本君の担当の書道の時間へと移った。橋本君が、筆で半紙に漢字を書くと、子ども達に

とって、初めて見るであろう日本語や、初めて意味を知る日本語との出会いだっただろうか、子ども達は、「友」という漢字を何回も書いていた。練習時間が終わると、大きな布へ書く事になった。

まずは橋本君が大きく「友」という字を書いた。そして、手に絵の具を塗って手形をつけた。子ども達は、一人ずつ「友」という漢字を書くのと、手形をつけるのを待っていたが、皆、早く書きたそうでそわそわしていた。全員が、書き終わり、手形をつけ終わると、黒板の前で立って、みんな写真をとった。そのとき、一人の子どもが私に抱きついてきてくれて、とても嬉しかった。

書道が終わると、一度グラウンドに出て、みんなで遊んだ。ケチャップゲームというものをしたが、ケチャップ役は私で、みんなはトマトであった。これはハンカチ落としのようなゲームである。また、ジャンプ力を競ったり、ベンチに座ってお話をしたり、あつというまに時間が過ぎて行った。

お昼は、みんな、食堂に行き自分で食べるものをお盆に乗せて、順番に好きな席に座っていた。子ども達は、お昼は、給食を食堂で食べるか、家に帰って食べるかの2択のようだ。また私達は、教師がお昼を食べる部屋と一緒に給食を食べた。先生方は、お弁当を持ってきている人、給食を食べている人、家に帰って食べている人の3種類いた。また、食べるときはボナペティ（召し上がれ）といい、食べている最中に人が来たら、その人はボナペティといい、食べている人はメルスイ（ありがとう）と言っていた。給食の内容はメインがビーフシチューのようなもの、おかずはチーズで、フランスパンもあり、デザートにはヨーグルトがあり、それらは私の好きな味であった。給食を食べ終わると、食堂にもう一度行き、食器を片付けた。その後またグラウンドに行き、子ども達と沢山遊び、フランス語も少し教えてもらった。



ディドロ小学校にて書道教室開催

アテンダントのマリーさんが来る時間になり、子ども達や先生方に別れの挨拶をして、マリーさんと橋本君と共に、次の目的地へ向かった。その前に一旦、日の出協会へ行った。そこには、ミサキ麗子さんと、娘さんのみれいさんがいた。その方達と一緒に、ツール市内の観光を少しして、サンガシアン大聖堂の構造の説明を聞いた後、日本のことをもっと知りたいというフランス人が集まっている建物へ行った。今回は書道を学ぶ会のようなものであった。麗子さんや橋本君が、書道のお手本を書き、皆に教えた。私も二人に教えてもらった。フランスの人

達は、日本語をあまり書いたことがない人ばかりで、筆を使って書くときに日本語の形を保っておくのが大変そうだった。みんな、「夢」という漢字を書き、左下には名前をカタカナで書いた。最後にはみんなで写真を撮った。

書道を楽しんだ後は、みんなでツール市内を少し観光した。そのときに、先ほど一緒に書道を練習したフランスの人達は、私達に沢山質問をしたり、お話をしたりして、仲良くなった。皆日本に行きたいようであった。日本のことが大好きなんだと実感することが出来た。リンダさんが迎えに来る時間がきたので、市役所いき、リンダさんの車に乗った。

家に着き、ホストマザーのクリスティーナさんに家の周りを散歩してもいい？と聞くと、クリスティーナさんも一緒に来てくれた。しかし、歩き出してすぐに雨が降ってきた。ここでも雨女パワーを発揮してしまった。だが、私達は雨を気にせず散歩を続けた。すぐ近くの丘を上がると、ブドウ畑が辺り一面に広がっていた。開けたブドウ畑の向こうの方に、虹を見ることができた。私達はそ

のまま歩き、橋本君のホストファミリーの家の近くまで歩いた。十分に散歩を楽しんだ後、家に帰り、夕食を食べた。夕食では、様々な種類のチーズの食べ比べをした。私はやぎのミルクから出来るチーズが好きだとわかった。そしてやはりヴーヴレイといえば、ワインである。しっかりとヴーヴレイワインの味を楽しんだ。夕食を食べ終えた後は、1日の疲れがどっと出たのか、気がつけば眠っていた。



地元ヴーヴレイの白ワイン

## 9月19日(火)

朝からパトリスさんが、近くのパン屋さんでフランスパンを買って来てくれた。家族全員で朝食を食べた。マカロンやケーキが出てきてとても美味しかった。食べ終わると、リンダさんが私のホームステイをしているトネ一家の近くまで来てくれて、市役所へ向かった。そして、トゥールの国際交流会館で、安田華子さんとお会いした。安田さんは高校の時からフランスで生活をして、日本の大学へ進学をし、交換留学生としてもう一度フランスへ訪れ、大学卒業後はフランスでガイドなどを行っているようだ。そして、今日だけ華子さんは一緒に付き添って通訳をしてくれるようであった。そして、私と橋本君とトゥール市役所職員のオローホさんと華子さんと、アゼルリドー市のオノレドゥバルザック校へ向かった。

私は、中高一貫校であり子ども達の年齢は高いと思っていた。しかし、今回の対象年齢は中等部の13～14歳であった。担当のクラスでは、手作り翻訳カルタと書道をした。先に私が手作り翻訳カルタを教えた。最初、カルタをするのに対して、ちゃんと理解してもらえるかがとても不安だった。だが、カルタゲームを進めていくたびに、子ども達の楽しそうな顔や、新しく知っていく日本語を覚えようとする姿勢がひしひしと伝わって来てとても嬉しかった。とくに、日本語の形を覚えようと、子ども達はそれぞれの自分のノートに慣れない日本語を書いていたことに、とても感動した。

私がカルタをし終わると、今度は橋本君が書道を教えた。子ども達は、あまり書道に触れる機会が無いせいか、橋本君の筆さばきや書道用品に見入っていた。橋本君が大きな布に「友」という字を書き終えて、その漢字の周りに、子ども達の名前や「友」の字や手形を置くことになった。一人一人が出来るように、橋本君や私は子ども達を手助けしていった。

書道が終わった後、子ども達が自力でも折り紙を折れるように、私は簡単に折り紙の説明をした。全員の前で折ってみせると、皆私の手元にある折り紙に釘付けであった。何が出来るのかがとても気になったようだった。作り終えた後に、これは風船です、兜です、と、完成したものの名前を言うと、皆、ああ～！と理解していた。折り紙を終え、授業が終わる時間になると、子ども達は私や橋本君のサインを求めてきた。私は照れながらも、子ども達のノートに自分の名前を書いていった。給食を食べながら、フランスの学校給食についてや、学校生活の様子、フランスの食事のマナーを聞くことができた。また、食べた後は、子ども達から、私達のことを学校新聞に載せたいという要望があったので、写真の撮影があった。

時間が来たので、アゼルリドー城の近くの街へ向かった。アゼルリドー教会へ行き、オローホさんと華子さんから、外壁の説明や内装の説明をうけた。例えば、外壁の石像の顔が分からなくなっ

ているのは、フランス革命の時に革命家達が自分達の顔を分らないようにする為に削った為か、風化現象がおきた為であること。また、中世は字を読めない人が多かったので、話の絵をガラスにかき、目立つように色とりどりにしたのが、ステンドグラスの発祥であることなど、一つ一つに意味や歴史があり、とても興味深いものであった。また、その教会には、聖マルタンを称える案内板があった。聖マルタンは、誰かを助けるときに、自分の持ち物を半分にして渡したことでとても有名な方である。316年に亡くなり、昨年(2016年)11月に大きなセレモニーがあったようだ。

その後は、アゼルリドー城へ向かった。アゼルリドー城は、城の周りに、16世紀から水を引いている。また、このお城は戦争のためのお城ではなく、城主がいかに裕福な生活をしているか周りに示すためのお城である。ロワール川流域にはこのようなお城が多いようである。また、城主は3代目であり、その城主が変わるたびに城に自分が城主であった痕跡を残すようで、いろんな時代の特徴のある部屋が沢山残っている。このお城には、沢山の有名人が訪ねており、ルイ13世や考える人の彫刻で有名なロダンが来ていたようである。

アゼルリドー城の内部を隅々まで見た後、この街でここでもしか売っていないものを沢山揃えているお店へ向かった。伝統的なお菓子の説明を受け、私は古くからあるコムルリーマカロンを購入した。普通のマカロンとは形や味が全く違い、若干重みがあるがドーナツ状でさくさくしており、食感の全く異なるマカロンである。アゼルリドー市内観光を楽しんだ後は、トゥール市役所へ行き、リンダさんと合流した。リンダさんのオフィスや、レセプションをする場所を案内してくれた。また、リンダさんがトラムの製作に関わっていることを教えてくれたり、チーフを紹介してくれたりした。リンダさんの車で家に帰った後は、パトリスさんとセリアとで、モンコントゥール城の近くの丘に行き、そこから川の景色や夕日を楽しんだ。



絵の様に美しいアゼルリドー城



ホストファミリーのセリアとロワール川にて

## 9月20日(水)

朝は水曜と土曜の朝に開かれるオルダーマーケットに行ったが、そこでは、ハンドメイドのアクセサリーや、古着やバッグ、植物やその種を売っていた。私は珍しい植物の種を買った。また、食材などを売っているマルシェに行ったが、店頭に置かれている野菜が色とりどりであった。また、ショッピングセンターの、食料品売り場では、チキンを焼いているのを見た。チキンを丸々一羽で売っていたり、オーブンで回しながら焼いていたり、日本とは違って驚いた。その後、長年フランスで生活をしている、サン・シール・シュール・ロワールの日仏協会のクレオラミキさんとお会いして、一緒にメットゥレのキッズレクリエーションセンターにいった。そこは、自然の中の一部のように感じるほど広く、子どもに最適な環境である。クレオラさんの話によると、フランスの

学校は、水曜は昼から学校が休みなので、小さい子どもがいる大抵の家庭はキッズレクリエーションセンターに子ども達を預けているようだ。ちなみに、学校に通う子は、ほぼ全員、毎日親が学校まで送っている。そして毎週水曜の朝は、いつも通りに親が学校に子どもを送り届け、昼に授業が終わると、市の職員が子どもをセンターに送り届けるそうである。給食もついている。私達もお昼にその給食を食べた。フランス料理のフルコースのように、前菜のメロンが出た後メインディッシュが出てきた。給食を食べた後は、職員の方々とコーヒーを飲んでブレイクタイムを過ごした。その後は、私は折り紙教室を、橋本君は書道教室を、というように二手にわかれて、子ども達を5人ずつ教えた。対象学年は幅広く幼い子から大きい子もいて、みんなわからないところがあれば助け合いをしていた。

私は折り紙で風船を教えた後、外に出てみんなでどの位風船をポンポンとつけるかや、どの位遠くまで飛ばせるか、また、風船をみんなでパスをして、遊んだ。風船がしぼんだときは膨らまし方を教えた。遊んだ後は、外でブレイクタイムがあり、みんなでパンを食べたりお話をしたりした。日本語ではどうなの？という質問が多く、日本についてとても興味があることが分かった。帰る時間になるのはあっという間で、私達はクレオラさんとともに、オローホさんと待ち合わせをした場所に向かった。オローホさんと会った後は、オローホさんの車で市役所へ行き、リンダさんの車で私のホームステイ先の家へと帰った。夕食には、ヴーヴレイワインを飲んだが、とても美味しかった。夕食を食べた後は、セリアがギターを弾き語りをしてくれた。私はセリアの歌声がとても好きである。私にギターの弾き方を教えてくれたがとても難しく断念した。しかしギターを上手に弾くのは憧れるので、またどこかで弾いてみたい。



キッズレクリエーションセンターにて子ども達と

## 9月21日(木)

朝は、マリーさんとともにトゥール市内にあるCFA料理学校（フランス政府認定の手工業組合による専門学校）へ向かった。そこは、シェフになりたい人や料理学校の先生になりたい人、ウェイトレスになりたい人達の養成学校である。ここは、最近できた学校で、教員が豊富で、環境がとても整っている場所である。最初、私と橋本君は厨房へ行き、観察や実際に調理を体験させてもらった。シェフになりたい人、料理学校の先生になりたい人は、ここに入学して1年目は基礎などを習い、2年目は自分の専門を見つけ、3年目はそれぞれが自分の技術を高めていくようだ。厨房を見た後は、私は、ウェイトレスになりたい人の習う場所へ向かった。フルコースの前菜の盛り付け方から、出し方、接客方法などを学んでいた。また私は、英語を使う国で、ウェイトレスや料理人になりたい人の英語の教室に参加し、交流をしたり、意見交換をした。お昼になり、オローホさんが料理学校を訪れ、オローホさんと橋本君と私は、この料理学校にあるフランス料理のレストランでお昼を食べた。フルコースとなっており、全て学生が午前中に作ったものである。ここに出てくる料理や接客はとても伝統的なものだ、とオローホさんが教えてくれた。

お昼を食べた後はオローホさんと別れ、以前にもお会いした麗子さんと娘のみれいさんとで、トゥール市の博物館へ行った。館内へ入る前に、地下貯蔵庫に入った。地下の壁は、昔、ナショナル通りの端にあった石が使われており、天上には彫刻を見ることができる。博物館内にも様々な置



物や絵画があった。博物館の後は、サンマルタン大聖堂と旧市街のプリムロー広場を観光した。その後は、市役所に戻り、オローホさんが出迎えてくれて、市役所の歴史や建物の説明をしてくれた。レセプション会場には既にホストファミリーや、今までにお世話になった方々が来てくれていた。また、オノレドゥバルザック校で日本文化を教えたクラスの担任のサンドラル先生から、ピンクの可愛いピアスのプレゼントを頂いた。とても嬉しかった。レセプションでは、最初にトゥール市長のセルジュ・ババリさんからお話があり、大西高松市長からの言葉を述べお土産をトゥール市長にプレゼントし、また、トゥール市からのプレゼントを頂いた。そして、我々のプレゼンテーションをした。内容は、自分の夢や日本文化の伝えたいこと、これからのことについてである。発音は不安だが、堂々とプレゼンテーションできたと思う。また、今回この研修で、沢山のフランスの学校に行き日本文化を教えたり、実際に日本の学校とフランスの学校の相違点に気づいたり、普段はなかなかできないことを体験した。

また夜は、セリアと彼女の友達と橋本君と私とでプリムロー広場に行き、みんなでドリンクを飲んだり、アルプス一万尺を教えたり、素敵なひと時を過ごした。家に帰り、パトリスさんがスクランブルエッグを作ってくれたが、とても美味しかった。また食べたいとリクエストしたら、日曜の朝作るねと言ってくれた。



CFA 調理師専門学校にて



トゥール市役所のレセプションにて



プリムロー広場にて  
日の出協会の麗子さん

**9月22日(金)**

今日は、危うく寝坊しそうになった。きっと体がこっこの時間に慣れたのだろう。市役所に行き、マリーさんとともにヴァンシー校へ向かった。そこでも、昨日ピアスを頂いたサンドラル先生が居て、そのクラスで日本文化を教えることになった。13歳位の子のクラスである。時間が1時間しかなかったので、手作り翻訳カルタをした。みんなしっかりと日本語を発音してくれたり、覚えようとしていたり、日本に対する興味を持っていると感じられた。フランスの子ども達は、疑問があれば発言者に対してすぐに手を上げ、もし当ててくれなくても発言者が話し終わるまでずっと上げ続けていた。また、フランスの学校には、放課後に部活動やクラブ活動というものがあり、個人で習い事をしている子ども達が多いようだ。また、書き物をするときは基本的にペンだけを使うことを教育しているようで、マーカーペン等を多用する日本と違う点が多々あり驚いた。そして、家で過ごす時間や自分の時間を大切にしており、皆が自分の性格や個性をしっかり持っているんだなと感じた。

ヴァンシー校からの帰り道に、ミシュランの三ツ星を獲得している「シャルル・バリエ」という

お店があり、厨房をのぞいているとシェフが出てきて、厨房の中を見学させてくれることになった。そのシェフはパンを作ることが得意で、私達にパンとワインの試食をさせてくれて、とても美味しかった。最後には、パンのお土産を頂いた。市役所の近くに戻り、お昼に橋本君と先ほど頂いたパンを食べた。外はサクツとしていますが、中はふわふわしていてとても美味しかった。

昼からは、ヴィランドリー城にオローホさんとともに向かった。最初に城主のカフバルーさんのお宅に行きインタビューをした。城主にインタビューすることはなかなかなく、またその様子を映像に撮っていたため私はとても緊張した。しかし、ヴィランドリー城についての気になっていることをしっかりと聞くことが出来たので嬉しかった。リビングでコーヒーを頂いた後は、ヴィランドリー城の中を見学した。オローホさんが隅々までヴィランドリー城について説明してくれてとても勉強になった。私は古城や教会を見学することやその歴史を聞くことがとても好きであり、今回の研修で様々な古城や教会の説明をして頂く機会が沢山あってとても嬉しかった。

屋上からの景色は、息を呑むほど綺麗だった。世界的にも有名な幾何学模様の野菜庭園を上から見ることが出来て本当に嬉しかった。また、今の城主のカフバルーさんの祖父が作った水の庭園や、カフバルーさんが作った様々な種類の植物の庭園や、迷路の庭園、不思議の国のアリスに出てくるような庭園、野菜庭園など、間近で見ることが出来た。夜は、パトリスさんとセリアとで家の近くで開催されているジャズのコンサートに行った。渋さとカントリーがミックスした曲調で、私達はとても気に入った。ブレイクタイムではワインを片手にみんなと会話を楽しんだ。家に帰ると、セリアの姉のカミーユが帰省で家に帰ってきていた。カミーユとセリアと日本語講座をしたり、ピアノを弾いたりした。



ヴァンシー校にてカルタ教室を開催



手作りで用意したカルタ

## 9月23日(土)

この日はホストファミリーと過ごす日である。私は外国の古城が大好きで、また、レオナルド・ダ・ヴィンチが晩年に暮らしたお城に興味があったので、クロリュセ城にパトリスさんとクリスティーナさんとセリアとともにいった。クロリュセ城には、ダヴィンチが使ったものや、モナリザのコピー版などの描いたもの、発明したものが展示されていた。近くに公園があり、ダヴィンチが発明したものを復元したものを置いていて、触ったり遊んだりできた。ダヴィンチが生み出した数々の絵画や製図はどれも当時の人々の感覚より5世紀以上進んでいるもので、彼に対して驚きを隠せなかった。昼食はアンボワーズの街でハムエッグクレープ(ガレット)を食べた。日本のクレープとは生地が少し違っていて、もっちり感をより楽しめた。

その後は、街の散策をした。アンボワーズの街も、トゥールの街もやはりどの街も石畳の道や煉瓦造りの家で美しい。ちなみに、トゥールの街には白い家が多いが、それはトゥールの街の近くの

白く加工しやすい岩からけずり出されたものを使っているかららしい。

そして家に帰りソファーに座っていると、ホストファミリーがみんな近くに来てニコニコしていた。何かな？と思っていたらなんと、沢山のプレゼントを頂いた。中には、今日アンボワーズの街で見かけたけど買うのを断念したものもあり、とても嬉しかった。お皿とコップの飾り物や、王の紋章のキーホルダー、可愛いノート、フランス菓子の作り方の本、この地方にある沢山の古城の本など、様々である。本当に嬉しいし私のとても好きなもので驚いた。夜は、お好み焼きを作った。トネー家は以前日本に来た時にお好み焼きを食べたことがあり、お好み焼きが大好きである。家族全員がわくわくしていて、動画や写真を撮ったり、歌を歌ったりして、調理を楽しんだ。日本から持って来たお好み焼きソースやマヨネーズをお好み焼きにかける時も、おおー！と言っていた。また、お味噌を持ってきていたので、冷蔵庫にある具材でお味噌汁も作った。食べる時はみんなお箸を使っていて、とても美味しい！と言ってくれた。夕食後は家族全員で、Cups という、曲に合わせてコップを使う遊びをしたり、トネー家がキャンプや遠出をする時に歌う歌を歌ってくれたりした。また、私から全員にハート型に折った折紙にメッセージを書いて渡した。また、日本から持って来たプレゼントをそれぞれに渡した。皆とても嬉しそうであった。トネー家で過ごした時間はとても短くあっという間だった。トネー家と過ごせて、また出会えて幸せである。次回来たときはもっと長くこの家に滞在してねといってくれて、本当に嬉しかった。



ホストシスター達とお好み焼き作り



ホストファミリーとアンボワーズの街へ

## 9月24日(日)

ついにトゥール市を出発する日がやって来てしまった。まだまだトネー家の方々と過ごしたい気持ちや、ここで学びたいという気持ちがとても強かった。朝食は、パトリスさんの作る大好きなスクランブルエッグとサーモンの盛り合わせとパンを食べた。家でセリアとカミーユとお別れをし、パトリスさんとクリスティーナさんとともにサン・ピエール・デ・コール駅へと向かった。駅では麗子さんやマリーさんもいた。橋本君と橋本君のホストファミリーと合流し、私達はTGVに乗った。パトリスさんとクリスティーナさんが、また次会ったときは、今回よりももっと沢山の古城巡りを一緒にしようねといってくれた。外国人のさよならの考え方は、少しの間お別れをするだけで、また会いましょうという考え方だと感じた。この感覚は、陸続きの外国だからこそあるもので、素敵である。近い将来、もう一度トゥール市に行き、みんなとまた会いたい。

TGVでモンパルナス駅につくと、まずはホテルへと向かった。フロントで受付をすると、ホテルから直で空港に行く車があると聞き、当初はバスの予定であったが変更をして、それを予約した。

準備が整い、まずはエッフェル塔へと橋本君と向かった。だが途中で道が不安になってきて、近くを歩いているおばさんに声をかけたところ、エッフェル塔と凱旋門を案内するよとってくれた。おばさんの名前はキャットリンさんである。電車で行くのがいいよと言われて、電車の乗り方も教えてくれながらエッフェル塔へと向かった。プラットフォームから上がるとすぐにエッフェル塔がとても間近に見ることができて大迫力であった。これぞパリ！と思ったと同時にエッフェル塔の美しさに見入った。ちょうどそこには、オリンピックマークの建築物があり、エッフェル塔とオリンピックマークの組み合わせを楽しめた。そして、また電車にのり、今度は凱旋門にいった。いくつもの道の、ど真ん中にそびえ立っている凱旋門の存在感の大きさに驚いた。そこで私達はキャットリンさんと別れた。旅には素敵な出会いが沢山あるんだなと実感した。私達はシャンゼリゼ通りを歩き、観光やショッピングをした。ずっと真直ぐ歩き、ルーブル美術館についた。映画に出てくる景色そのものあり、真ん中のガラス張りの三角の建物が神秘的であった。私達は、モナリザとミロのヴィーナスを見る為にガラス張りの建物の中に入った。やっと見れると思ったらなんと、モナリザの展示時間は午前中だけであった。私達はモナリザを諦め、ミロのヴィーナスを見ようとしたらこれも時間的に厳しかった。まあそんな時もあるさ、といって私達はルーブル美術館に来れたことに満足した。お互い、次フランスに来たときは必ず見ると誓った。その後は、予定通り、橋本君は予約をしていた、日本人が経営しているフランス料理店に向かい、私はセーヌ川のクルージングのボートがある場所へと向かった。ボート出発まで後5分のところでギリギリ乗りこめた。セーヌ川沿いには、ノートルダム大聖堂があり見ることができた。また、夕焼けから夜の移り変わりをボート上で楽しみ、夜のライトアップしたエッフェル塔や、パリの自由の女神をみた。私はエッフェル塔の前でボートを降り、ライトアップしたエッフェル塔の真下ぐらいまでいった。そこから見るエッフェル塔は本当にうっとりするほど綺麗だった。いろんな場所からエッフェル塔の写真を撮ったり、観光客や子連れの方に写真を撮ることをお願いしたりした。そして、昼に来た場所に行き、上からライトアップされたエッフェル塔を見た。またそこで夕食を買い、エッフェル塔を見ながら夕食を食べた。さて、帰ろうとしたそのとき、エッフェル塔がキラキラと光り出した。イルミネーションのバリエーションがあり、キラキラしたエッフェル塔も普通のエッフェル塔も見れたのでラッキーだ。そして、今度は1人で地下鉄に乗り、モンパルナス駅にいき、ホテルへと着いた。橋本君の方が先にホテルに戻っており、お互い、別行動した後の思い出話をした。



サン・ピエール・デ・コール駅にて  
お別れ



青空に映えるルーブル美術館

## 9月25日(月)

今日は日本へ帰る日だ。ホテルでバイキングの朝食を食べ終え、前日に少し早めの時間で予約したホテルが手配してくれた車に乗った。車の運転手が私達に沢山話しかけてくれたり、空港に行くまでの道の景色を楽しんだり、空港まであつという間であった。空港に着くと、私たちが乗る飛行機の受付のカウンターがまだ空いていなかった。私たちは、空港内を歩いてみた後、受付カウンターの近くの席に座り空く時間を待った。その間ツール市で過ごした数日間やパリの観光の時に撮った写真を見たり、思い出話をしたりした。思い返せば、本当にあつという間の約2週間であった。

そして受付カウンターが開き、色々な手続きをした後、飛行機に乗った。まずは、フランスから、アラブ首長国連邦のドバイの空港まで7時間のフライトである。飛行機の窓から見るフランスの景色がどんどん遠のいていき、「もう日本に帰国するんだ」と心の中で実感した。私と橋本君は、ツールの帰国報告書を作成したり、話が難しい映画を一緒に解説したりして、あつという間にドバイについた。ドバイはフランスと打って代わって、気温が高く、湿度も高く感じられた。私達がドバイ空港に着いたのは深夜であったが、ドバイ空港は24時間空いている空港なので深夜でも賑わっていた。私達は、なぜかずっとポテトとハンバーガーが食べたいと思っているので、ドバイ空港でバーガーキングを見つけるとお互いハンバーガーとポテトを注文して食べた。

## 9月26日(火)

搭乗時間になったので飛行機に乗り、飛行機の窓からの景色を見るとまだ暗かった。今からは、ドバイ空港から関西国際空港まで10時間の空の旅である。日本に向かう便なので、飛行機の中は日本人がとても多かった。日本語があちらこちらから聞こえてきて、もうすぐ日本に帰国かと改めて感じた。今までの疲れがどっと出たのか、私はこのフライトでは、ほぼずっと寝ていた。飛行機が日本の上空を通過して、窓から山や街がみえると、ああ、帰ってきたんだと感じた。関西国際空港に着き、色々な手続きを済ました後、橋本君はたこやきを買った。私はお腹が空いているのか空いていないのかがよく分からなかったので、ホットコーヒーを買って、2人とも高速バスに乗った。中央インターが私の家から近いので、私は中央インターで降りた。家に着いて、母におにぎりとお味噌汁が食べたいとリクエストした。母が作ってくれた久しぶりの家での夜食は、とても美味しく感じた。

## 感想文



高松大学 発達科学部 2年  
永木 はるか

### 沢山の出会い

とてもあっという間でした。フランスのトゥール市での生活は、普段の生活では体験出来ない事ばかりで、とても新鮮で素晴らしい約2週間になりました。最初は、慣れない土地で慣れない言語を使って生活することに、不安な気持ちと、楽しみな気持ちの両方がありました。しかし訪れてからは、気が付けば毎日が楽しくて仕方がありませんでした。

今回、フランスの様々な学校やキッズセンターに訪れて、私は翻訳カルタと折り紙を、橋本君は書道を教えました。実際に学校生活の中に入って物事を教えたり、子ども達と休み時間に遊んだり、学校給食を食べたりすることで、フランスと日本の子ども達や学校の相違点に気付きました。トゥール市役所での日本文化と将来のことについてのプレゼンテーションや、フランス料理学校での調理参加、ロワール渓谷に存在するいくつかの古城や教会訪問、そして、トネー一家でのホームステイ、というような数々の貴重な体験をしました。出会った沢山の方々が、私たちの事や日本文化、日本について興味深々でとても嬉しかったです。実際に訪れて現地の事を知っていくにつれて、フランスと日本はお互いに魅力的な国だと改めて実感しました。

また、国際交流とは、お互いに伝えよう受け取ろうという気持ちが原点だという事、交流をするためにはまず、自分の国の事をしっかり理解するという事を再認識しました。この研修で学んだ事を、国際交流の懸け橋となり、様々な方々に伝えていきたいです。そして日本の子ども達にフランス、また外国に対する興味や関心の輪を広げていきたいです。

そして、体験できた多くの事は、高松市、トゥール市の沢山の方々からのサポート無しでは実現する事が出来ませんでした。本当にありがとうございました。近い将来にもう一度フランスを訪れて、また皆さんにお会いしたいです。その時は、もっともっと長く滞在して、トゥール市の魅力をさらに見つけたいです。素敵な旅には沢山の素敵な出会いがあり、笑顔とありがとうの気持ちは、世界に共通するものだ実感しました。この研修で学んだことは、私の大きな財産です。これらのことを活かして、これからも感謝の気持ちを忘れずに、私らしく目標に向かって全力で頑張っていきたいです！

# 親善研修生 報告書 Ⅱ





## 日誌・活動記録

キッス調理技術専門学校 調理助手 橋本大奈

### 9月16日(土)

日本から出た事がない私は9月16日ドバイ経由でフランスに向かった。台風で飛ばないと思っていたが無事時間通りに飛ぶことが出来てよかった。飛行機の中には外国人がたくさんおり、わからない言葉が飛び交っていた。体験した事も無い空間で緊張していた。だがとてもあったかく美味しい機内食が出てその緊張を和らげてくれた。



ドバイにて乗継ぎ中

### 9月17日(日)

初めての国際線での乗り継ぎも同じ研修生の永木さんに助けてもらいながら何とかフランス行きの飛行機に乗ることが出来、合計17時間のフライトを終えて夢の聖地に無事到着した。

荷物を取りトイレへ行き帰ってくると「醤油が漏れてる」と言う永木さんの一言で慌ててスーツケースを開けると手遅れで、ホームステイ先で使おうとしていた醤油は全て漏れていてスーツケースの中は醤油の香りで一杯になっており、周囲にもほのかに醤油の香りがしていた。着いて早々の事件。まだ始まったばかり、次はいい事件が起きてくれればいいのだが。フランス国鉄の新幹線TGVでサン・ピエール・デ・コール駅に着くとホームステイ先のスネさんが迎えてくれていた。私はスネさんと一緒に家に向かった。私のホストファミリーはホストファーザーのジョンリックさん、ホストマザーのリンダさん、長女のシャーロット、次女のアポリーヌ、三女のガロンスである。家には横穴を掘って作ったワインの貯蔵庫があった。三姉妹は、家の隅々まで私に教えてくれた。外の気温は13度、貯蔵庫の中は冷蔵庫より冷たくなっていた。自分の家にワイン貯蔵庫があるのはいいなと思った。フランスで初めての夕食はサーモンとハーブのグリル、カレー風味のラタトゥイユ(夏野菜の煮込み)、パンであった。日本の様にご飯が出てこないで、もう日本を出たんだと改めて思った。夕食中に誕生日の話になると、なんとリンダさんも2月16日と、私と同じ誕生日だったのでとても嬉しくてお互いに喜んだ。みんなフランス語がよくわからない私に身振り手振りも加えて簡単なフランス語でゆっくり話してくれてとても優しいスネさん一家である。日本語が飛び交わない世界でフランスの文化、食生活を体験しながら、日本の文化、料理を自分なりの表現で伝えて行きたいと思った。



横穴を掘って作ったワイン貯蔵庫

## 9月18日(月)

午前8時30分、本格的なツールでの研修がスタートした。まずディドロ小学校で書道を教えた。事前の研修で教わったフランス語での書道の説明をノートにまとめてあったが上手く言うことが出来なかった。ジェスチャーや片言の英語を使って自分がしたいことを何とかわかってもらえたという事が小学校での楽しかった点である。一人一人の子どもが一生懸命に僕が言っていることを聞いてくれたので言葉では伝わらないものが伝わった気がする。布に「友」と言う漢字をみんなまで書いて寄せ書きをした。子ども達と外で遊ぶ時間がやってくると、フットボールが大好きな子ども達は必死にボールを追っかけ夢中で走り回っていた。フランスでもフットボールは盛んな様であり、こちらの子も達も日本と同じようにみんな体を動かす事が好きなんだなと思った。別れ際にみんなまで外で写真を撮った。すると「ありがとうございます」と日本語で言ってくれて大変感動した。また行けたら日本語をもっと教えたいと思った。午後からは日の出協会の麗子さんと少し散歩しながらツール市内を案内してもらった。途中でツール市内唯一の和食屋さんを見つけたが、違和感なくツールの街並みに馴染んでいた。日の出協会では書道を協会の人に教えた。「夢」という字を書いてもらったが、「夢」は私の好きな漢字で、夢に向かうことはとてもいいことだと思う。日の出協会では書道も教えていたらしく、みんな上手に筆を使っていたので嬉しかった。筆を使って文字を書くという文化は日本でも減ってきているので、日本でもフランスでも筆を使って字を書く、書道が広まって行って欲しいと思った。書道が終わると生徒みんなまでツール市街を散歩しながら会話を楽しんだ。そこでフロランタと言う17歳の男子と話をしたが彼は漫画が好きで特にワンピースが好きだった。私もワンピースが好きで話が盛り上がり繋がるものがあって良かった。彼から色々フランス語を教えてもらい、私は日本語を教えた。彼は日本語をもっと話せるようになったら秋葉原に行きたいそうであるが、来た時は私がガイドするよと約束した。その時が楽しみである。ジョンリックさんが今日から日曜日まで仕事でパリに行く為、会うのが最後ということで彼特製のラザニアを作ってもらったが、全て自家製でベシャメルソース、ミートソースが美味しかった。



ディドロ小学校にて書道教室を開催



日仏協会の人達と市内散歩

## 9月19日(火)

今日のスネ家の朝食はフランスパンと自家製ジャムとチョコレート、シリアルと牛乳だ。今朝は雨だった。気温がかなり下がっており、日本の初冬の寒さだった。素敵な出会いがあった。現地でガイドをしている安田華子さんに会う事ができた。彼女はとても優しく親切な人で、フランス語を

流暢に通訳してくれた。彼女と共に中高一貫のオノレドゥバルザック校に行った。訪問したのは中等部の方で年齢は13～14歳だった。今日は私は「夢」、「仏蘭西」と書いた。なぜ「夢は漢字一文字で、仏蘭西は漢字三文字なんですか？」と生徒が聞いてきたがうまく答えることができなかった。私は当たり前と思っていたのでこういう疑問を持っていなかった。フランスでは日本の当たり前は通用しないと痛感した瞬間だった。20人の元気あふれる生徒に真っ白な布に思いっきり自分達の名前を書いてもらった。昨日とはまた違った味があった。2時間という短い時間であったが共に過ごせてとても良かった。ランチは学校の食堂の調理場で作られた給食を頂いた。最近では日本同様、フランスでも学校給食は一般に給食センターで作られており、学校単独で給食が作る場所は少ないらしいが、ここは学校独自で作っているとのことである。味付けも考えてあるようで卓上には塩、胡椒は1つも見当たらない。メニューは前菜にトマト、コーンと言ったサラダ、メインはバランスよく配合されている選りすぐりのスパイスで味をつけられた鶏モモのソテー、野菜本来の味を味わえるラタトゥイユ、当然ながらフランスパンもついており、食後にはフロマージュ（チーズの一種）とここの地域で採れた牛乳で作られたヨーグルト、フランスではポピュラーな葡萄もあり、全てが美味しかった。学校を後にして向かった先はアゼルリドー市にある、縦横に規則的に窓があるのが特徴のアゼルリドー城。この城は要塞を壊して作られている。アゼルリドー城の他にもトゥール市周辺にあるいくつかのお城は要塞を壊して作られており、大半は国が所有しているが近隣の一部の城は個人が所有しているようである。後日訪問予定のヴィランドリー城も後者に当たる。アゼルリドー城は近くにシノンの森という森があり、その森の木や周辺の石を川を使って運んで建築されており、建築開始からわずか4年で完成している。他のお城は木や石を陸路で運び、時間がかかってしまう為、城の建築に大体2倍の8年位かかるらしい。シノンの森はワインが有名でぶどう畑がたくさんあり、秋になると地元の方で大賑わいのキノコ狩りが行われている。城の中には、当時の食卓の模型でナイフ、フォーク、スプーンが置かれており現在のレストランと変わらないが、フォークが裏を向いていた。それはフォークの裏に紋章が刻み込まれており、一目でこれは誰のかわかるようになっているのである。逆に、イギリスでは表に紋章があったらしい。料理や料理に対する礼儀、歴史を学べたいいい機会であった。城を出たすぐ近くのオシャレなお店に入った。そのお店は70年以上の歴史がありお菓子や保存食を売っているお店だった。洋梨や林檎の芯をくり抜いて徐々に乾燥状態にするプラティソワーという機械は伝統あるものらしい。そして芯なし状態になったものをオープンの中に一週間近く出し入れを繰り返して乾かすように焼かれたお菓子は保存期間が15～20年も持つ伝統的な簡易保存食だった。現在ではアゼルリドー市に3、4軒しかないとても貴重な店になっている。私はそれをお土産とし日本に持ち帰り、高松で広め伝えようと思った。



オノレドゥバルザック校にて書道教室開催



同校の学校給食

9月20日(水)

私が一番楽しみにしていたトゥール市のマルシェ（食材市場）にやって来た。地元で採れた多種多様の野菜やフルーツを安く売っており、全て色鮮やかでまるで宝石のようであった。高松市では見かけられない黄色やピンク色のセロリ、ハロウィンには持ってこいの巨大なかぼちゃ、私も実物を見るのが初めてのアーティチョーク（チョウセンアザミ）とか見るだけで興奮した。これも日本ではなかなかお目にかかれない迫力ある兎の肉や、フランスでは当たり前のような色々なパテを置いてあって楽しかった。道を歩いていると見るとびっくりするようなモンスターと呼ばれている金属製の彫像に出会った。そのモンスターは芸術的で今にも動き出しそうなくらいの躍動感があり私はこのモンスターが好きになった。その後、日仏協会のクレオラ美紀さんに出会い一緒にメットウレのキッズレクリエーションセンターに向かった。事前に選ばれた10人の子どもたちが半分に分かれて、1グループは永木さんと折り紙、もう1グループは私と一緒に書道をした。人数が少なかった為、みんなに私が書いた「友」「夢」「寿司」「食」「龍」という字を半紙に書いてプレゼントした。みんな喜んですぐになつてくれた。フランスの子ども達は好奇心旺盛で私達はたくさんの思い出をプレゼントしてもらった。クレオラ美紀さんのおかげで子ども達がフランス語で話しかけてくるのを通訳して頂いて本当に助かった。この学校にはおやつ時間があつたが子ども達は敷地内の芝生に座って先生の指示に大人しく従っておりみんな賢かった。私は普段なかなか子どもたちと触れ合う機会が少ない為、こう言う機会は今後ずっと大切にしていきたいと思った。トゥール市に帰って来てアポリヌと永木さんと一緒に、トゥール市中心部の、真ん中にトラムが通り、若い人からお年寄りの方まで集うメインであるナショナル通りを探索した。キッチングッズやキャンドル、服を売っている店やスーパーなどに行った。オレンジを丸ごと機械に入れ果汁100パーセントのジュースをそのまま飲める機械がスーパーにあつたりしてとても驚いた。家に帰って来るとシャーロットとガロンスと3人でフロググと言うカエルの人形を使ったボードゲームを行なつた。全くルールもフランス語もわからないままゲームが始まったがやっけて行くうちにルールも分かり初めてにして勝つことが出来た。次回も私が勝ち、このボードゲームに向いていると思った。今日の夕食はリンダさんの料理であるが、食欲をそそる様な色々なスパイスやハーブが並べられてあつた。これらの調味料はジョンリックさんのこだわりだそうで、なかなかそこまで揃える人はいないので彼に出会えてとても良かったと思った。



マルシェ（食材市場）にて様々な野菜、果物が売られている。



キッズレクリエーションセンターにて子ども達と

9月21日(木)

CFA 調理師専門学校（手工業組合の調理専門学校）に行った。この専門学校の人はみんな優しく私が近づくとやってみる？と声をかけてくれて一緒に料理を作ることができ、フランス料理を学びたかった私は伝統的な赤ワインのソースや色々なフランス料理を学べることが出来た。私が働いているキッス調理技術専門学校と CFA 調理師専門学校とで交換留学が出来たら、もっと高松とツールで活気溢れる交流ができると提案があった。この交換留学が出来た時には自分のことみたいにうれしくなるに違いない。普通の調理師専門学校とは違って本格的な伝統ある様式で学生レストランを運営していた。学生が作る料理なので安くて美味しい上に、世界でも通用するサービス、昔ながらのスタイルで、目の前でお肉を切り好きな量のソースをかけられる伝統的様式であった。学生が運営してるとは思われない落ち着きがあり、食べている時に学生のぎこちなさが全く気にならなかった。高松市でウェイターを目指している方がいるなら是非 CFA 調理師専門学校に行くといい勉強が出来、レストランに入るよりも的確に教えてくれると思う。午後からは日の出協会の麗子さんとその娘みれいさんと一緒に街を探索した。まず初めにツール美術館に行き、なかなか見ることができない、建築当時（17世紀）サンガシアン大聖堂と美術館を繋いでいた秘密の道を見ることが出来た。現在は封鎖されており一部分しか通ることが出来ないがこういう殆ど知られていない所は他にもあるらしい。美術館では現代的なアートや昔からの絵画などを見ることが出来、私の好きな、印象派のモネの本物の作品にもお目にかかることが出来た。この芸術的色彩感覚を料理に活かせたらいいと思う。次に聖人サンマルタンのお墓があるサンマルタン聖堂に来た。サンマルタンの逸話としては、彼がフランスの北部に行った時、一人の寒そうにしている貧しい人と出会った時に着ていた赤いマントを半分に切ってその人にあげ、その人を助けたとされるとても心優しい方だったらしい。私も彼みたいに人を助けられる心優しい人になりたい。

今日は待ちに待ったレセプションの日。レセプションにはたくさんの方がきてくれた。私は慣れないフランス語を使って「和菓子」についてプレゼンした。「聞き取りやすかった」とか「勉強になった」などの言葉をもらうことが出来て最高に楽しかった。フランス語はフランス料理をやって行く上で必要不可欠だからもっと聞いて話して書いて、ということを繰り返す必要がある。無事レセプションが終わり私は行きたいところがあった。それはプリュムロー広場と言い、建物の壁が全体的に広場側に前傾になっているのが有名な場所だ。高校生がよくこの場所に来て遊んでいるらしい。私はコーラを飲みながら生で演奏している音楽を聞いていて少し満足感に浸っていた。ここはツールで来たかった所の一つで来れて最高にいい気分だった。



CFA 調理技術専門学校にて調理実習

9月22日(金)

とうとう今日のヴァンシー校が最後の学校訪問になってしまった。時間があまりなかった為と、歳が13～14歳の生徒に対して日本の文化を伝えて欲しいという要望があったので、題材はカルタにした。カルタは子ども達にとって日本語の勉強にもなったと思う。逆にフランス語でカルタをしたら我々のフランス語の勉強になると思う。生徒達は日本語がとても上手で周りで「ありがとう」、「すし」などと口々に言っているのが驚いた。私がフランスを好きな様に生徒達も日本が好きなんだと思えた光景だった。だから私は日本語を知ってもらおうと思ってカルタ以外のたくさんの日本語を伝えて来た。とても楽しかった。学校訪問を終えて、フランスの子ども達はみんな積極的で全てに興味を持っていると思った。このような子ども達をもっともっと自分たちの将来の目標に向かって行ったら楽しい人生があると思う。私達が子ども達にいい道しるべを与えられるようにもっと考えて行動して行く必要があると思う。学校を後に車に戻るときマリーさんが「ここはツールで有名なお店よ」と言った。それは「シャルル・バリエ」というカンボジア人のシェフが経営している店である。シェフが作るパンは格別美味しいと評判だ。

パンだけを買いに來るお客さんも多いと言っていた。私達は試作中のリエット(パテ状の肉料理)と焼きたてのパンを食べた。リエットはいくらでも食べれる程のいい塩分量でとても美味しかった。パンの外側はクッキーみたいにカリカリしているが、中はふわふわで噛めば噛むほど甘みが出てきてリエットとマッチしていた。このようナザ・フランス料理を作りたいと思う。

1時から玉藻公園・ヴィランドリー城・ツール市3庭園連携協定を結んでいるヴィランドリー城に向かった。

提携を結んで1周年記念と言う事で城主のカフバルーさんにインタビューするというとても貴重な体験をすることができた。私はヴィランドリー城の庭園は以前から知っていたが実際それを目の前にした時は感動が止まらなかった。みずみずしそうな見るだけでよだれが出そうになった野菜で作られた庭園、目でも楽しめ音でも楽しめる安らぎの場の水の庭園があり噴水で使っている水は循環しておりとてもエコで地球に優しいのである。ヴィランドリー城には他の庭園もあり、季節によってその年によって庭園は色々な顔をする。次はどのような顔をするか楽しみである。夜はホストファミリーとその従兄弟のヤンさんと一緒にプリュムロー広場にあるレストランへ向かった。メニューを広げた時思わぬ名前が目にとまった。それは「エスカルゴ」だ。いい機会だから頼んでみようと思いを決めた。今まで食べたことが無く、どういう香りでどういう味がするのか想像できなかった為ワクワクしながら来るのを待った。エスカルゴはオーブントースターで焼かれ、私のテーブルに置かれた。食べ方もわからなかったが見て見るとサザエを取り出すのと同じようだった。それは簡単に出来るものでオリーブオイルと香草の香りが最高だった。食べて見ると貝に近いが貝特有のコリコリ感はなくホタテの内臓に似ていた。とても美



三星レストラン「シャルル・バリエ」のシェフと



幾何学模様が美しいヴィランドリー城の庭園

味しく 12 個あったエスカルゴを殆ど食べてしまい申し訳ないと思ったが、リンダさんが「喜んでもらえてよかった」と言ってくれて嬉しかった。メインはロワール川で取れた魚と現地のチーズというフランスづくしのピザを食べた。一人一枚食べていたのだが三女のガロンスは四種のチーズの乗ったピザを食べきれなさそうにしていた為少し食べてあげた。日本のチーズの乗ったピザと違って香りが強くこれは一人で一枚はなかなか食べられないなと思った。本場のチーズも食べれてレストランにも来れていい一日になった。

## 9月23日(土)

今日まる一日フリーで、ホストファミリーと過ごした。朝から地元のマルシェ(食材市場)に行った。水曜日のマルシェと違って大きく新鮮で生きた魚を売っており、またいい香りのするフルーツがあった。丸々一羽の鶏を専用の機械でグリルしており、見ているとお腹が空いてきた。今日の夜は寿司を作ってほしいと言う要望があり、脂の乗った綺麗なオレンジ色をしていたサーモンとコロコロ歯ざわりがとていい鯛を買った。フランスならではのパテ、リエット(パテ状の肉料理)、リオン(角煮の一種)、食後のデザート用にマルシェならではの価格のおどろを買った。あとは日本食材店へ行き寿司には欠かせない醤油、わさび、寿司に必要な材料を買うことが出来た。そのショップには味噌や即席の味噌汁、色々あり日本に居るかのように思えた。家に帰りお昼はお肉づくしになった。フランスに昔からあるパテはジョンリックさん以外みんな嫌いだと言っており食べている私を不思議そうに見ていた。なぜ嫌いなの?と聞くと彼女たちは食感や味そのものが嫌いと言っていた。おそらく肉本来の持つゼラチンが固まっており、肉とゼラチンを一緒に食べるのが抵抗あったのだと思う。逆に私はそれが好きだ。彼女達はリエット(パテ状の肉料理)、リオン(角煮の一種)がとて大好きで長女のシャーロットはリオンをたくさん食べているのを見て私は幸せになった。リエットはパンにつけて食べることによって塩分が良い加減になっており、彼女はセボーン(いいね)と言っていた。シャーロットが好きになる理由がわかった。

昼食を食べ終わるとリンダさんが午後からワインの製造所を見るか、リンダさんのお墨付きのお菓子屋さんに行くかどちらがいいと聞いてきた。ワインの製造過程も見てみたかったが私はあまりお酒が得意ではないので試食して見るならお菓子だなと思ってお菓子屋さんを選んだ。その前にあのモナリザなど数々の名画をこの世に残したレオナルド・ダ・ヴィンチのお墓がある、アンボワーズ城へシャーロットとリンダさんとで向かった。アンボワーズ城はロワール川沿いにあり橋を渡ればすぐお城があった。車を止めアンボワーズ城へ向かった。遠くで見るととて大きく城壁の紋章が一つ一つ繊細で芸術的建物だった。坂を登り門をくぐって入っていった。レオナルド・ダ・ヴィンチが眠る塔へ連れていってもらった。そこはとて心が落ち着くような光が射すように作られており、塔の上部に天使がいるように思えた。中は涼しく少し寒いぐらいに感じた。やはり部屋以外階段などは全て石で作られている為当時そこにいた人は夏場は涼しく生活しやすかったと思うが冬場は極寒だったに違いないと思った。外を見るとロワール川の一面の光景が本当に綺麗で飽きない。以前行ったアゼルリドー城やヴィランドリー城とはまた違ってアンボワーズ城には部屋の角に悪魔のような彫像が彫り込まれていた。それはアンボワーズ城特有のものとリンダさんが言っていた。余韻に浸っているとお城へ行く前に話していたお菓子屋さんが出たすぐの所にあっただ。そのお菓子屋さんはイチゴのケーキが美味しいから食べてと言われてしかも、9月23日の今日リンダさんの甥っ子のヤンの誕生日だったからそのケーキを買いデザートに出すねと言われた。

それを持って帰った。夕食まで時間があつたのでシャーロットと卓球をした。シャーロットは卓球がとても上手で全く歯が立たなかった。お寿司を作る時間がやってきた。お寿司だけじゃ寂しいと思い、日本から持ってきたカツオと昆布で出汁を取り、味噌汁を作った。器用な手つきでお寿司を作るヤンさんはとても綺麗な握り寿司を作っていた。無事お寿司はできた。前菜にみんなでサラミや今日の朝買ったエスカルゴを食べながら私はヴーヴレイのスパークリングワインを頂いた。そしてリンダさんが私に栓を開けていないそのスパークリングワインをプレゼントしてくれてとても嬉しかった。そしてメインの寿司を食べたが私にみんな美味しいと言ってくれてとても楽しい夜になった。



地元で有名なお菓子屋さん



ホストファミリー宅でお寿司パーティー

## 9月24日(日)

10時53分発の電車に乗る為、朝9時に目を覚ました。トゥール市での最後の朝食はこれまでと違うクロワッサンが出てきた。そのクロワッサンはサクサクとしていて甘かった。いい朝を迎えて準備を済ませ家を出ようとする時みんな私にありがとうと日本語で言ってくれて私はメルシーボク(ありがとう)と返事した。別れるのが本当に悲しかった。家族同然のように接してもらったジョンリックさんとリンダさん、私を遊ぼうと誘ってくれたシャーロット、アボリーヌ、ガロンスみんな本当にいい家族だった。ジョンリックさんの運転で10時30分に家を出たが、「ホームステイはどうだった?最高だった?」と聞かれて迷わず「イエス!ベリーベリーグッド」と返事した。本当にありがとう。駅に10時45分に着いた。駅にはもうすでにトネーさん夫婦と永木さんと麗子さんとマリーさんが着いていた。最後にみなさんに別れの挨拶をして電車に乗ってから発車まで手を振りありがとうと言いつづけた。ドアは閉まりとうとうトゥール市にさよならをした。我々はパリへ向かった。パリでは華子さんの紹介で彼女のお友達の篠塚大さんというフレンチのシェフが経営する「レ・ザン・ファン・ルージュ」というお店に行くことになっていた為とても楽しみだった。1時間でおしゃれな街パリへ着いた。駅を出てホテルへ向かった。角をぶつけながら30キロある荷物を持ち階段を下ると目の前にホテルがあった。近くてよかったと安心した。荷物を置きパリの街へ出て行った。

まずはパリの顔とも言えるエッフェル塔へ向かった。向かう途中行き方が曖昧になりある女性に尋ねた。キャットリンさんと言ったが、彼女は親切に、歩いている逆の方向へ私たちを案内してくれた。とても親切な方で電車の乗り方を教えてもらい凱旋門の行き方まで隅々まで教えてもらった。彼女とはさよならかと思ったら彼女は電車にのってエッフェル塔まで連れて行ってくれた。訳がわからないまま駅の階段を登ると目の前にはあのエッフェル塔があり私は彼女にありがとうございましたと言った。オリンピックのマークもありとてもいい写真が撮れて本当に良かった。なんと彼女は凱旋門にも連れて行ってくれた。凱旋門は巨人がすっぽり通れるような大きなアーチになっており門が大きい



すぎて写真を撮るのに手こずった。とても幻想的だった。今まで彼女みたいな方に出会った事がなくとても優しい人だった。エッフェル塔と凱旋門2つ見るだけでもたっぷり時間がかかると思っていたが、彼女のお蔭で時間短縮できたのでシャンゼリーゼ通りを通過してルーブル美術館まで行った。

シャンゼリーゼ通りにはパリならではのポストカードやTシャツ、写真立てなどたくさんのお土産が売られていた。私は自分のおみやげにパリ限定のランチョンマットを買った。お昼はPAULというパン、ケーキを売っているお店へ入った。そこでフランスパンにサラミとキュウリのピクルスとチーズが挟んであるものを頼んだ。パリの太陽を浴びならの昼食は格別で美味しかった。デザートにフランスのお菓子オペラを食べた。ほろ苦い味わいになっており甘いものがあまり好きでない私でもペロリと食べてしまった。昼食を済ませ、ルーヴル美術館へ向かった。1時間ぐらいシャンゼリーゼ通りを通り抜けると映画に見たことのあるガラスのピラミッドに会えて良かった。モナリザやミロのヴィーナスなど見たかったが開門時間が過ぎてしまっていて断念せざるをえなかった。次行った時は必ず見てみたい。

買い物を済ませて私は永木さんと別れ、7時から予約していたレ・ザン・ファン・ルージュへ向かった。マップを見ながら何とか到着できた。食事が始まった。カリフラワーのムース、フランス産のグリーンオリーブが出て来た。カリフラワーのムースなど食べた事がなく、不思議な味がした。グリーンオリーブはさっぱりとしていてとても食べやすかった。食べ終わるとまたカカオのムースが入り周りにカカオが散りばめられて上にはチョリソーに乗ったコーンスープが出来た。そのスープはコーンの甘さとカカオのほろ苦さがいい感じにマッチしており甘すぎず苦すぎずとても美味しかった。前菜は私の大好きなブーダンノワール。これは豚の血や内臓をテリーヌ（蓋付き土鍋入りのパテ）にしている古典的なフランス料理だ。メインはお肉を食べた。上品な味わいでフォアグラも表面はカリッとしており美味しかった。デザートのライチのムースの味はたまらなかった。お腹いっぱいだったがどんどん食べる事ができた。とてもいいパリの夜だったと満足してホテルへ向かった。ホテルに着いた後、永木さんとお互い別行動した後の話をした。



ルーブル美術館にて

## 9月25日(月)

パリからシャルル・ド・ゴール空港へ向かった。飛び立つまで時間があり、キッス調理技術専門学校生徒80人分のお土産を空港で買う事ができた。最後の最後で見つける事ができホッと一安心する事ができた。さようならフランスと思いながら滑走路を眺めてドバイへ向かった。

## 9月26日(火)

ドバイへ着いた。あと10時間で日本に着くと思うとなんだか嬉しくなってきた。ドバイから日本は寝なければ時差ぼけにはならないよと日本での研修時に言われていたが私は疲れていたのか寝てしまってあっという間に関西空港に着いてしまった。そこからリムジンバスで3時間半で高松駅に無事帰る事が出来た。飛行機で寝てしまったので、その後家に帰り寝ようとする案の定寝る事が出来なかった。

## 感想文



キッス調理技術専門学校 調理助手  
橋本 大奈

### フランスで学んだ事

私はフランス料理が好きで、フランスに興味がありました。行くと建物や飾ってある絵などが一つ一つ繊細で古くからのフランスの文化を感じる事ができました。この研修で印象に残ったことが3つあります。

1つ目は、毎晩の様に食べていたフランスの家庭料理です。その中でブランケット・ド・ヴォーという伝統の家庭料理が好きになりました。これは仔牛の白い煮込みでバターライスと一緒に食べます。このように現地で本場の味を知る事が出来て私のこれからの料理の幅が広がりました。家でも作りやすかったのでとても勉強になりました。フランスの「美味しい」は日本の「美味しい」と同じと実感しました。お寿司を作って食べてもらったときも美味しいと言ってくれたので、日本で美味しいフランス料理を食べる時と同じ感覚かなと思いました。

2つ目は、CFA 調理師専門学校に行った事です。私は小さい時から料理が好きで現在キッス調理技術専門学校で働いています。両方の生徒に言える事です。料理に一生懸命前向きに取り組んでおり、一緒に料理をする事はとても楽しかったです。少しばかりわかるフランス語の料理用語を使って簡単な会話が出来たのでとてもいい経験になりました。両方で交換留学が出来たらいいねと言われたのでそれを実現できるように頑張っていきたいです。

3つ目は玉藻城と提携を結んでいるヴィランドリー城に行った事です。そこの庭園を見た時、本やインターネットで見るとは違って、野菜や花などが綺麗な幾何学模様に配置されており感動が止まりませんでした。水の庭園は唯一動きのある庭園になっており、目で楽しめ音でも楽しめるとても心安らぐいい時間を過ごす事が出来ました。現地で大勢の日本人の方ともいい出会いをする事が出来たので関係者の皆様に本当に感謝しております。

私は外国に初めて行きましたが外国人とコミュニケーションを取るという事はとても難しいものだと感じました。でも、片言の英語やジェスチャー、色々な方の助けのおかげでいい研修になりました。今後1人で行く時があると思いますが、その時にはちゃんとその国のことばがしゃべれないとうまくコミュニケーションが取れなくなってしまいます。今回の親善研修をきっかけに日々勉強していこうと思います。関係者の皆様本当にありがとうございました。



